

森林防疫

FOREST PESTS
VOL. 24 No. 12 (No. 285)

■編集・発行 全国森林病虫獣害防除協会／東京都千代田区内神田 1-1-12 コープビル内 ■1975.12.1 (月刊)



樹皮下のマツノマダラカミキリ幼虫

永井 進
林野庁森林保全課

10月10日現在において、樹皮下へ穿孔中の幼虫はごく少なく、その大半は材内へ穿孔していた。
写真撮影場所：岡山県瀬戸町瀬戸神社入口 (1975.10.10)

目 次

| | |
|--------------------------------------|--------------|
| 樹木に寄生するアブラムシ(3) | 宗林 正人..... 1 |
| 《緑化樹の病害虫シリーズ そのXIV》 | |
| 神奈川県における緑化樹木の病害 | 大野啓一郎..... 7 |
| 《被害速報》昭和50年10~11月の森林病害虫等被害発生状況 |12 |

樹木に寄生するアブラムシ(3)

宗 林 正 人
皇学館大学教授・農博

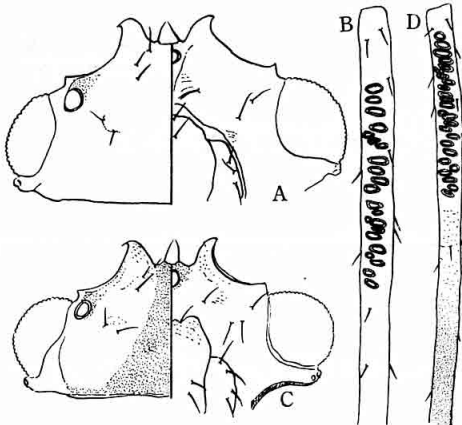
前回につづき、樹種ごとに寄生するアブラムシについて記述する。

シラカバ

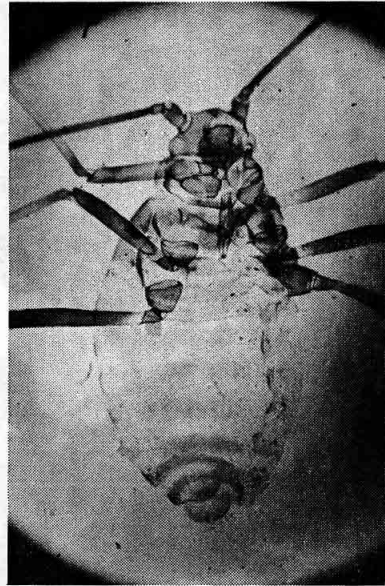
カバワタフキマダラアブラ、カバブチアブラ、シラカバハマキアブラムシ(新称)、ダケカンバハコブフシアブラムシ(新称)、シラカバヒゲナガマダラアブラムシ(新称)などが寄生する。

カバワタフキマダラアブラ *Euceraphis punctipennis* (ZETTERSTEDT) (図III-1, A. B.), 有翅胎生雌虫: 体長約4.5mmで体には白色綿毛を装う。触角第3節には基部約1/4のところ、だ円形で縁毛を有する感覚器を13~23個具える。第6節鞭状部は基部の約1/2。脛節先端部の感覚毛は4~5本。翅斑は淡色で長い。各翅脈の末端部は淡褐色、他は透明。腹部第1~5節側面には顕著な突起を有する。背面には斑紋のないものもあるが、大形斑紋が第4、第5節背面にあるものがみられる。角状管は淡褐色で基部は淡色、基部の幅の1.2倍長。尾板は半円形で約10本の毛を有する。尾片は淡色で中央がややくびれ、先端丸くなり約11本の毛を生ずる。生殖板は大きく約40本の毛を生ずる。

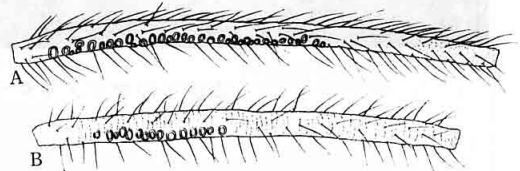
カバブチアブラ *Symydobius kabae* (MATSUMURA)



図III-1. A. B. カバワタフキマダラアブラ
C. D. ダケカンバワタフキマダラアブラムシ

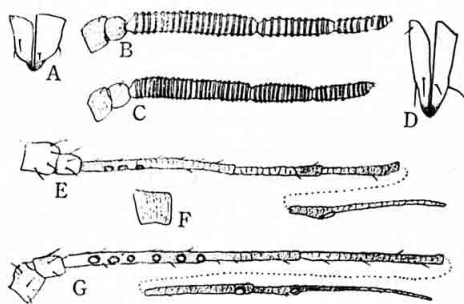


写真III-1 カバブチアブラ



図III-2. A. ハンノブチアブラ
B. カバブチアブラ

(写真III-1, 図III-2, B) 無翅胎生雌虫: 枝や葉柄に寄生する。体暗褐色、体長約2mm、多数の長毛を生ずる。触角第3節には基部3/5に3~15個の感覚器をほぼ一列に具える。触角は顕著に覆瓦状を呈し、毛はほぼ直角に生ずるものが多い。第6節鞭状部は基部より僅かに短かい。腹部背面には、各節に顕著な横斑がある。側面の斑紋も顕著で、夫々に2~5個の乳頭状小突起と約7~10本の毛を有する。角状管は準截断形で黒色、6~7本の毛を輪生する。尾片は瘤状で黒く若干の毛を生ずる。有翅胎生雌虫は触角第3節に約45個の長だ円形感覚器を



図Ⅲ-3 A. B. シラカバハマキアブラムシ
C. D. ダケカンバハコブフシアブラムシ
E. F. シラカバヒゲナガマダラアブラムシ
(無翅胎生雌虫)
G. 同(有翅胎生雌虫)

具える。翅斑の周縁は黒い。腹部背面の横斑は小さく、第8節背面のものは帯状をなす。ダケカンバにも寄生する。

シラカバハマキアブラムシ *Mansakia shirakabae* (MONZEN) (図Ⅲ-3) 有翅胎生雌虫(秋型): 体長約1.65mm。頭部の毛は甚だ短かく、触角第3節基部直径の約 $\frac{1}{2}$ 。触角は5節、第4節は第5節よりも長い。輪状感覚器を第3節に25個、第4節に11~15、第5節に8~10個具える。口末末端部は短かく、後脚第2跗節の約 $\frac{1}{2}$ 。腹部背面の毛は触角第3節基部直径の約1.2倍長。角状管を欠く。尾片は基部近くでくびれ、先端瘤状で8本の毛を生ずる。尾板は中央部湾入して2葉となり、夫々に8本の毛を生ずる。生殖板の毛は約20本。無翅胎生雌虫(夏型): 扁平、円形、体長約1.5mm。淡黄緑色。体の周縁には多数のろう腺があり、白色の分泌物を装う。頭胸部及び腹部第1~7節は全く癒合する。腹部第8節は分離する。触角は2節もしくは分節しない。前脚及び中脚は跗節を欠く。後脚には退化して小さい跗節があるが爪を欠く。

ヨーロッパではシラカバに *M. betulina* (HORVATH) が寄生するというが *M. shirakabae* とは感覚器が多数であることにより区別できる(即ち、*M. betulina* は第3節に33~36、第4節に13~16、第5節に16)

門前(1934)¹⁾によれば、本種は不完全生活環をなすもので、越冬した無翅胎生雌虫から生れた幼虫は5月頃葉裏に生活する。これらが6月から7月には夏型の有翅形となり、これら有翅形から生まれた幼虫は生長して無翅胎生雌虫となる。8月の終り頃には秋型の有翅胎生雌虫が現われ、これから生まれたものは、小枝の芽の基部で越冬するという。

シラカバには後述のダケカンバハコブフシアブラムシ

M. gibberi (MONZEN) も寄生する。

シラカバヒゲナガマダラアブラムシ *Calaphis annulata* (KOCH) (図Ⅲ-1), 無翅胎生雌虫: 黄緑色, 体長1.6~2mm。体の毛は太いが剛毛ではない。その長いものでは触角基部直径の約4倍長。触角第3節基部近くに小円形感覚器を3~6個具える。第6節鞭状部は基部の約2倍長。後脚第1跗節の毛は6本。腹部背面には各節に淡褐色の横帯紋がある。側面にも小斑紋があり、夫々に1本の毛と小乳頭状突起がある。第8節背面の毛は10本。尾片は短かく中央部僅かにくびれ先端部は瘤状で約8本の毛を生ずる。尾板は2葉からなり、夫々に8~10本の毛を生ずる。

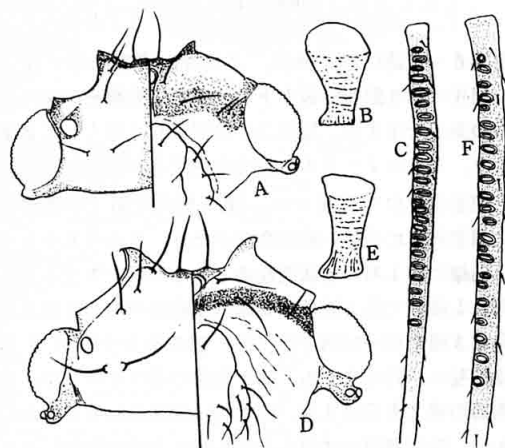
有翅胎生雌虫: 体長約2.1mm。腹部背面の横帯紋は細い。触角第3節に小円形感覚器6~9個を基部約 $\frac{1}{2}$ に具える。前翅の翅斑部は大きく、褐色、翅脈にそって僅かに黒くかすむ。径分脈は基部不明瞭。

THEOBALD (1927)²⁾ の記載とは体色が異なること、触角第6節鞭状部の短かいことで相違するが一応この学名を用いた。樋口(1972)³⁾によれば、シラカバには *C. betulacoleus* (FITCH) も寄生するというが、次の点で区別できる。

C. annulata KOCH の有翅形では、頭の背面の毛は長く触角基部直径の約4倍長、触角が短かく、第3節上の感覚器も少数。腹部背面に横斑紋を有する。

ダケカンバ

カバヒゲナガブチアブラムシ(新称), ダケカンバケアブラムシ(新称), ダケカンバワタフキマダラアブラムシ(新称), カバクダナンケアブラムシ(新称), ダ

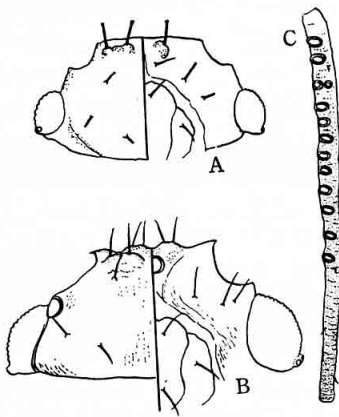


図Ⅲ-4 A. B. C. カバヒゲナガブチアブラムシ
D. E. F. ハノンキヒゲナガブチアブラムシ

ケカンバハコブフシアブラムシ (新称) などの寄生がみられる。

カバヒゲナガブチアブラムシ *Betacallis odaiensis* TAKAHASHI (図III—4, A~C) 有翅胎生雌虫: 体長3.1mm。頭の前縁部と単眼の周縁, 背面中央縦線部, また腹面の横帯紋は顕著な黒褐色を呈する。体毛は繊細で長い。触角第3節には約25個の長だ円形感覚器を基部%に具える。翅斑は淡色, 周縁暗褐色。肘脈と臀脈は黒くかすむ。腹部2~5及び7節体側に顕著な突起と1本の長毛を生ずる。第4, 第5節背面には夫々2本の横帯紋がある。第8節背面の帯状紋は淡色で約12本の毛を生ずる。角状管は黒色で基部の幅の1.3倍長。尾板の後縁はやや湾入する。尾片は淡色で中部くびれ, 毛は5本。

ダケカンバケアブラムシ *Betulaphis japonica* TAKAHASHI (図III—5) 無翅胎生雌虫: 体長1~1.2mm。頭



図III—5 A. ダケカンバケアブラムシ (無翅胎生雌虫)
B. C. 同 (有翅胎生雌虫)

の前縁には3対の小突起あり, その先端からは長い釘状毛が生ずる。触角第3節の毛は微細。第6節鞭状部は基部よりも僅かに長い, 体側には, 釘状剛毛を胸部各節に2本, 腹部第1~7節に夫々1本, 第8節には各側3本生ずる。背面の毛は

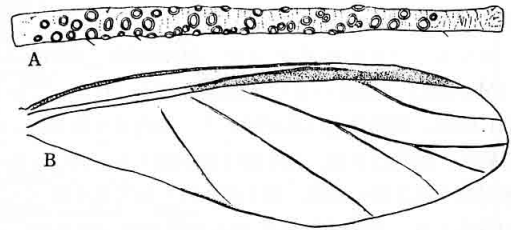
腹部第6~7節以外は微細。角状管は準截断形で小さい。尾片は第8節腹背板の下に位置して先端やや突出, 9本の長毛を生ずる。尾板は中央部著しく湾入して2葉となり, 夫々に7~8本の長毛を生ずる。

有翅胎生雌虫: 体長2mm, 頭, 触角全節と胸部暗褐色。頭部前方に小さい瘤状突起があり, 2本の毛を生ずる。前縁には1対の瘤状突起あり2本の毛を生ずる。毛は何れも繊細で長く触角第3節基部直径の約2.2倍長。触角第3節に12~14個の円形, 縁毛を有する感覚器を基部%に一列に具える。第1跗節の毛は5~6本。第2跗節の第2次毛は3対。角状管は基部の幅より僅かに短い。腹部背面には第5, 第6節に大形の癒合した斑紋がある。ただし第6節背面中央部は斑紋を欠く。体側第1~5節に斑紋を有するが第1節のものは淡色で他

は暗褐色。何れも乳頭状突起を1個と1本の長毛を具える。尾片は基部の幅よりも短かく, 先端丸く終り, 7~8本の毛を生ずる。尾板は中央部深く湾入して2葉をなし, 各々に10本の長毛を生ずる。

ダケカンバワタフキマダアブラムシ *Euceraphis ontakensis* Sorin (図III—1, C, D) 有翅胎生雌虫: *E. punctipennis* と近似であるが, 次の点で異なる。頭の背面中央部縦の斑紋が顕著である。触角は殆んどすべて黒色である。感覚器の縁毛は甚だ微細である。前胸背面中央に暗褐色の大形斑紋がある。脛節や跗節が殆んどすべて黒色である。腹部背面には小突起を有するものが多い。第7, 第8節背面に帯状紋を有する。体長約3.35mm。

カバクダナシケアブラムシ *Monaphis antennata* KALTENBACH (図III—6), 有翅胎生雌虫: 体長3.5~4.0mm



図III—6 カバクダナシケアブラムシ

頭の背面には約15対の短毛を生ずる, 腹面には多数のろう孔を有する。触角第3節には約53個の大小不同, 円形の感覚器をほぼ全長に分布する。腹部第1~5節側面には夫々大形の斑紋あり, 第2~5節の斑紋には顕著な乳頭状突起を具え, 突起には約6本の毛を生ずる。腹部背面の毛は甚だ短い。第8節背面には淡褐色の斑紋と小突起を有する。角状管は準截断形, 小形, 基部の体側斑紋は大きく, 3~5本の毛を生ずる。尾片は先端まるく終り基部の幅より短かく, 中央部少しくくびれ約8本の毛を生ずる。尾板は中央部著しく湾入し2葉をなす。前翅は長く, 翅斑も細長い。シラカバにも寄生する。

ダケカンバハコブフシアブラムシ *Mansakia gibberi* (MONZEN) (図III—3, C, D), 有翅胎生雌虫 (春季移住型): 体長1.6~1.8mm, 頭部背面の毛は微細で, 触角第3節基部直径の約 $\frac{1}{2}$ 。触角は5節, 輪状感覚器を第3節に26~28, 第4節に13, 第5節に10~14個を具える。跗節第1節の毛は3本。腹部背面の毛は短かく, 触角第3節基部直径の1.2~2倍長。角状管は小孔をなし周辺の皮膚僅かに肥厚する。尾片は基部強くくびれ, 先端は瘤状を呈し約12本の毛を生ずる。尾板中央は深く湾

入して2葉をなし、夫々に約8本の毛を生ずる。ウダイカンバ、シラカバにも寄生する。葉の表面に虫瘤を形成する。

シラカバハマキアブラムシとは次の点で異なる。触角第4節と第5節は同長。触角第3節は第4、第5節の和より僅かに短い。口吻末端節が長い。角状管は明瞭、附節第1節の毛は3本。

マカバ

マカバイボフシアブラ *Mansakia betulina makaba* INOUE 北海道のマカバのみに発見されている。井上(1936)⁴⁾によれば葉の表に多数のイボ状に膨起した虫瘤をつくる。有翅胎生雌虫：体長約1.5mm、暗赤色～赤黒色。触角第3節には24～26個の輪状感覚器を、第4節に12～16個、第5節に6～8個の感覚器を具える。翅は半透明、翅斑は暗褐色、中脈は単一。角状管は小孔状。尾片は半円形、瘤状。尾板は中央でくびれて2葉をなし、乳頭突起状を呈する。無翅胎生雌虫：卵円形、扁平、暗赤色～赤黒色。触角は4節。前脚と中脚の附節は退化、後脚の附節は短小。角状管は退化、体長約1.4mm。

本種は7月中旬～8月中旬に有翅胎生雌虫が現われ、マカバの小枝に産子するが、その子は越冬型で、そのまま越冬して5月中頃に成虫となり産子する。ここに生まれたものは夏生型といわれて、マカバの葉裏に移行して虫瘤をつくるという。

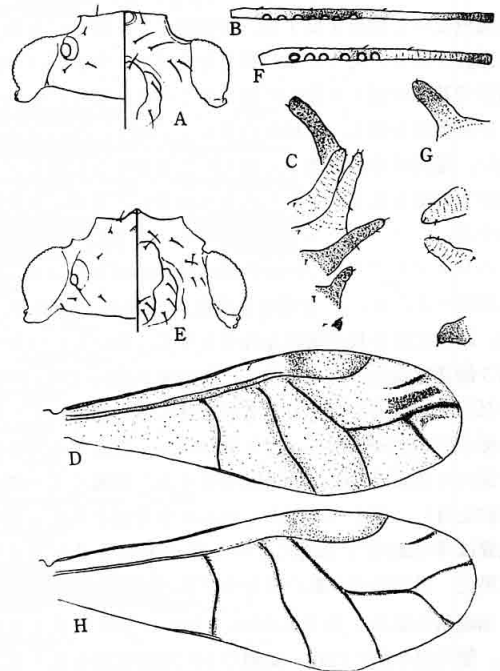
シラカバハマキアブラムシに似て甚だ複雑な、しかも独特の生活環をもつものとして注目したい。

ハンノキ、ヤマハンノキ、ヤシャブシ

ハンノヒゲナガアブラ、ハンノウスブチアブラ、ヤシャブシトゲマダラアブラ、ハンノブチアブラ、ハンノキクチナガオオアブラムシなどが寄生する。

ハンノヒゲナガブチアブラ *Betacallis alnicolens* MATSUMURA (図III-4, D~F) 有翅胎生雌虫：体長3.23.3mm、黄白色。頭の毛は繊細で長い。頭の腹面には一条の黒色横帯紋がある。触角第3節には卵円形の小形感覚器を18～23個具える。腹部の毛も著しく繊細で長い。第2～第5節体側突起体は小形で夫々1本の長毛を生ずる。第7節背面に1対の小形斑紋を有し、第8節背面には淡い横帯紋を有する。角状管は基部を除いて全体黒色で、中央部著しくくびれる。尾板は中央部僅かにくぼむ。尾片は淡色で、中央部くびれて瘤状を呈し7本の毛を生ずる。

ハンノウスブチアブラ *Recticallis alni japonicae* MATSUMURA (図III-7, E~H), 有翅胎生雌虫：淡緑な



図III-7 A~D ヤシャブシトゲマダラアブラムシ
E~H ハンノウスブチアブラムシ

いし黄緑色、体長約1.5mm、触角は第3～6節の末端部は黒色、第3節には基半部に3～5個の円形感覚器を具える。前胸部の両側は暗褐色、後縁に小突起を有する。翅は準透明、翅斑は褐色、径分脈は基部不明瞭。腹部第1～4あるいは第5節背面中央に、各節1個の指状突起があり、淡色のもの、前半部が暗色のものもある。腹側には第2～4節に小斑紋あり、夫々に2本の毛を生ずる。角状管は準截断形で体と同色。尾片は淡色で基部近くくびれて先端瘤状を呈し約8本の毛を生ずる。尾板も淡色で中央部湾入して2葉となり、夫々に約8本の毛を生ずる。

ヤシャブシトゲマダラアブラ *Recticallis nigrostriata* SHINJI (図III-7, A~D), 有翅胎生雌虫：緑色ないし黒褐色、体長約1.7mm。頭の背面には短毛が微小突起の上に生ずる。触角第1節末端は内側端が暗褐色で幾分瘤状に突出する。第3節は末端と中央部とが暗褐色、基半部に4～5個の円形感覚器がある。前胸側面は暗褐色ないし黒色で、中央部後縁に大形の指状突起がある。翅は準透明、翅斑は黄色、中部と後端は黒色、径分脈は基部不明瞭。中脈Iは薄黒く、その両側には薄黒い斑紋がある。肘脈と臀脈は黒色で、その両側は薄黒くかすむ。腹部第1～7節背面中央には夫々1個の指状突起がある

が、中でも第1～4節のものは長大で角質化し、前半部暗褐色ないし黒色を呈する。腹側第2～4節には各節に小斑紋があり、夫々2本の短毛を生ずる。角状管は準截断形で基部の幅より僅かに長く体と同色。尾片は中央部くびれ瘤状を呈し、約10本の毛を生じ、そのうち2本は長い。尾板は中央部著しく陥入して2葉をなし、夫々に約9本の毛を生じ、そのうち2本は長い。葉裏に多数群生する。

ハノノブチアブラ *Symydobius alniaria*(MATSUMURA) (図III-2, A), 有翅胎生雌虫：黒褐色、体長約4mm。頭部には多数の繊細な長毛を生じ、長いものは触角第3節基部直径の約2.4倍長。触角第3節には50～80個のだ円形、縁毛を有する感覚器を具える。翅はむしろ細い感じで翅斑は暗褐色。径分脈は著しく湾曲する。腹部背面には各節に顕著な横帯紋を有する。腹側にも各側に斑紋を有し、第1～4節のものには小突起を具える。角状管は準截断形で基部に3～4本の毛を生ずる。尾片は黒色、半円形で多数の毛を生ずる。

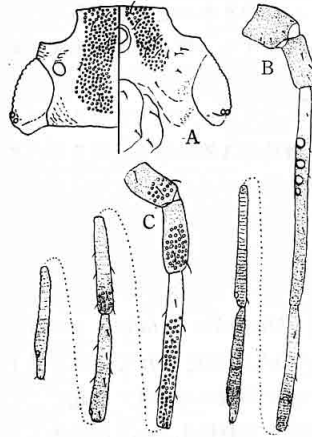
無翅胎生雌虫：体長2.08mm、体には多数の長毛を装う。触角第3節には18～35個の小円形感覚器を具える。触角の毛は第3節基部直径の2.2～2.5倍長。口吻末端節は第2附節とはほぼ同長。腹部背面には各節に淡褐色の横紋がある。体側斑紋には小突起を欠く。第1附節背面の毛を欠く。角状管の基部に毛を欠く。

ハノノキチナガオオアブラムシ *Stomaphis alni* SORIN, ケヤマハノノキの株元に近いところでアリと共生して、蟻道によって被覆された中に生活している。無翅胎生雌虫は体長6mmで暗褐色を呈する。前述のマツクチナガオオアブラムシとよく似ている。触角第6節は第5節よりも著しく長い。第2附節は触角第6節とはほぼ同長。尾板は幅よりも長い。雄虫の陰茎鞘先端部は、左右が交わることなく離れている。

ブナ

ブナハアブラムシ、ブナノヒリアブラムシ、ブナクチナガオオアブラムシなどが寄生する。

ブナハアブラムシ *Phyllaphis fagi foliae* TAKAHASHI (図III-8) 無翅胎生雌虫：淡緑色ないし淡黄色で、体には顕著なろう腺を具えて白色綿毛状の分泌物を装う。体長約1.4mm、触角第1～4節にろう腺がある。第2節は第1節の約1.7倍長。第5節は第4節より僅かに長い。第6節基部は鞭状部の約3.7倍長。頭部と腹部背面及び側面には各節に大形のろう板を有する。角状管は小孔をなす。尾片は半円形、淡褐色で5～6本の短毛を生ずる。



図III-8 A. B. ブナハアブラムシ (有翅胎生雌虫) C. 同(無翅胎生雌虫)

有翅胎生雌虫：体長3mm、頭部背面の毛は触角第3節基部直径の約1.4倍長。触角第2節は第1節よりも僅かに長い。第3節に3～7個のだ円形で縁毛を有する感覚器を具える。第6節基部は鞭状部の約7.5倍長。腹部背面には第2～6節のろう板が甚だ小さいか、あるいはこれを欠く。斑紋もない。尾片は基部で僅

かにくびれて瘤状を呈し7本の毛を生ずる。

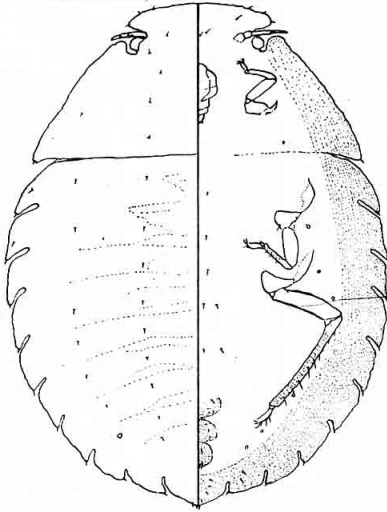
近似種に *P. fagi* L. があり、樋口 (1972) は *P. fagi foliae* TAKAHASHI を *P. fagi* L. の同種異名とされたが、Theobald, van der Goot 及び COTTIER の記述からみて、次の点が異なるので独立種としたい。即ち無翅形、有翅形ともに腹部背面に黒色の斑紋を欠くこと、触角第2節は第1節よりも長いこと。有翅形では触角第3、第4節の基部を除き他の殆んど全部黒褐色を呈することなどである。

ブナノヒリアブラムシ *Platyaphis fagi* TAKAHASHI (写真III-2, 図III-9) 無翅胎生雌虫：黄緑色、ほぼ



写真III-2 ブナノヒリアブラムシ

円形、扁平で葉裏に密着して寄生する。体長1.8～2.0mm、頭と前胸とは癒着している。中、後胸と腹部とは全く癒着するが、背面には、かすかに分節のあとがみられる。胸部と腹部体側は葉状突起あり、夫々その先端に1本の短毛を生ずる。その腹面は微細な突起を全面に装う。触



図III-9 ブナノヒラアブラムシ

角は4節、口吻は甚だ短い。角状管は小孔をなす。尾片は丸く瘤状。尾板、生殖板も小さい。

秋両性雌と雄虫が現われ、卵態で越冬する。

ブナクチナガオオアブラムシ *Stomaphis fagi* TAKA.

HASHI 無翅胎生雌虫：ブナの株元近くの落葉の堆積し

たところやコケなどの下で樹皮に寄生し、アリと共に生活している。体の表面には白色粉状のろう質物をうすく装う。体長約5.3mm。触角第3節は僅かに曲湾し、0~12個のやや突出した小形の感覚器を全長にわたり具える。第4節にも3~5個の感覚器を具える。後脚第2跗節は著しく長く、口吻末端節(IV+V)の約1.1倍長。

有翅胎生雌虫：体長約5mm、触角には小形感覚器を第3節に11~12個、第4節に6~7個具える。

参考文献

- (1) MONZEN K. (1934) Some contributions to the knowledges of the new and recorded species of the gall producing aphids. 盛岡高農同窓会学術彙報, 9 13~34
- (2) THEOBALD F. V. (1927) The plant lice or Aphididae of Great Britain. vol. 11: 380
- (3) HIGUCHI H. (1972) A taxonomic study of the subfamily Callipterinae in Japan. Ins. Mats. 35 (2): 55.
- (4) 井上元則 (1963), マカバの新害虫マカバイボフシアブラムシについて, テクニカルノート, 26: 16~20 (1975. 11. 20 受理)

緑化樹の病虫害シリーズ そのXVI

神奈川県における緑化樹木の病害

大野 啓一郎
神奈川県林業試験場

はじめに

京浜工業地帯に隣接する川崎、横浜の2大都市は県下で最も緑の要求度の高い地域である。そのため両都市では早くから、都市公園等の緑地の整備拡充を行い、随所に耐公害樹木を植栽している。その後県内各地に大規模な工業団地や住宅団地が造成されるに及んで、緑化樹木の需要も一段と高まって、横浜、藤沢、厚木などの各市内で緑化樹木の生産が盛んとなってきた。これらの緑化

樹木の需給の各分野で、未知な点の多い病虫害が問題となり、昭和44年から県下の関係試験研究機関で觀賞樹木の病虫害について、調査を始めることになった。神奈川県林業試験場では昭和48年度から都市公園の緑化樹木の病害調査を進めてきたが、昭和49年度から国庫助成試験「緑化樹木病虫害等の緑地形態別種類とその分布に関する調査」に加わって、生産苗畑や公園などの緑地の調査を行っている。これまでに調査した結果と県下で発生して問題となった病害などについて述べることにする。

1. 生産苗畑における緑化樹木の病害

藤沢市ほか3カ所の生産苗畑で病害調査を行った。どの苗畑も俗に植溜といわれている圃場で、一般住宅向の植木を主に生産している。小面積に多くの樹種が植栽されており、樹齢はまちまちであった。時には相当密植となる場合もあるが、比較的短期間で移植されるようである。このような生産苗畑では表-1に示すように、いろいろの病害が認められたが、落葉広葉樹類のうどんこ病と斑点性病害が目立って多かった。うどんこ病の被害で著しいものはサルスベリとイロハモミジであった。ただし、白花のサルスベリではほとんどうどんこ病は認められなかった。

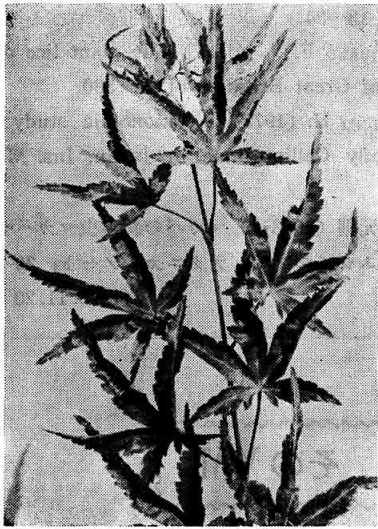


写真-1 イロハモミジのうどんこ病

表-1 神奈川県に発生した緑化樹木の病害

| 樹種 | 病名 | 被害部位 | 発生場所 | |
|-------------|----------------------|------|------|--------|
| | | | 生産苗畑 | 公園等の緑地 |
| イチョウ | ベスタロチア病 (Macrophoma) | 葉枝 | ○ | ○ |
| キャラボク | | | ○ | ○ |
| アカマツ, クロマツ | 葉ふるい病 | 葉 | ○ | ○ |
| | すす葉枯病 | 葉 | ○ | ○ |
| | マツノザイセンチュウ | 枝, 幹 | ○ | ○ |
| クロマツ | すす病 | 葉 | ○ | ○ |
| | こぶ病 | 枝, 幹 | ○ | ○ |
| | 皮目枝枯病 | 枝 | ○ | ○ |
| | 芽状てんぐ巣病 | 芽 | ○ | ○ |
| スギ | こぶ病 | 枝 | ○ | ○ |
| メジロスギ | 赤枯病 | 葉 | ○ | ○ |
| カイヅカイブキ | さび病 | 葉, 枝 | ○ | ○ |
| カロリナポプラ | マルソニナ落葉病 | 葉 | ○ | ○ |
| ヤナギ属 | すす病 | 葉 | ○ | ○ |
| | さび病 | 葉 | ○ | ○ |
| | 根頭がんしゅ病 | 根 | ○ | ○ |
| ハナガガン | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| アラカシ | うどんこ病 (紫かび病) | 葉 | ○ | ○ |
| ウバメガシ | うどんこ病 (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| コナラ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| カシワ | すす病 | 葉 | ○ | ○ |
| | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| スダジイ | すす病 (てんぐ巣病) | 葉, 枝 | ○ | ○ |
| | (根頭がんしゅ病) (症状) | 根 | ○ | ○ |
| ケヤキ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| | 白星病 | 葉 | ○ | ○ |
| エノキ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ヤマグワ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| | さび病 | 葉 | ○ | ○ |
| アケビ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ヒイラギナンテン | 炭そ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ナンテン | モザイク病 | 葉 | ○ | ○ |
| ホソバヒイラギナンテン | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| コブシ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| | 裏うどんこ病 (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| | (黒色斑点症状) | 葉 | ○ | ○ |
| ハクモクレン | ユリノキ | 葉 | ○ | ○ |
| ユリノキ | 炭そ病 (斑点細菌病) | 枝 | ○ | ○ |
| クスノキ | 炭そ病 (白紋羽病) | 根 | ○ | ○ |
| | (ウイルス病) | 葉 | ○ | ○ |
| アジサイ | 葉斑病 (うどんこ病) | 葉 | ○ | ○ |
| パイカウツギ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ウツギ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| トベラ | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| ユキヤナギ | うどんこ病 | 枝, 葉 | ○ | ○ |
| コデマリ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| シモツケ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ウメ | せん孔病 (うどんこ病) | 葉 | ○ | ○ |

| 樹種 | 病名 | 被害部位 | 発生場所 | |
|-----------|-------------------|---------|------|--------|
| | | | 生産苗畑 | 公園等の緑地 |
| | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| ニワウメ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| サクラ類 | せん孔褐斑病 | 葉 | ○ | ○ |
| | てんぐ巣病 | 枝 | ○ | ○ |
| | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| サクラ類 | 灰色こちやく病 (枝枯症状) | 枝, 幹 | ○ | ○ |
| | 根頭がんしゅ病 | 根 | ○ | ○ |
| バクチノキ | (せん孔症状) | 葉 | ○ | ○ |
| セイヨウバクチノキ | (せん孔症状) | 葉 | ○ | ○ |
| カナメモチ | うどんこ病 | 枝, 葉 | ○ | ○ |
| ジャリンバイ | 紫斑病 | 葉 | ○ | ○ |
| | さび病 | 芽, 葉, 枝 | ○ | ○ |
| | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| ボケ | さび病 | 葉 | ○ | ○ |
| | 根頭がんしゅ病 | 根 | ○ | ○ |
| ハナズオウ | 角斑病 | 葉 | ○ | ○ |
| ハギ | さび病 | 葉 | ○ | ○ |
| フジ | こぶ病 | 枝, 幹 | ○ | ○ |
| キハダ | さび病 | 葉 | ○ | ○ |
| ユズリハ | (Colletotricum) | 葉 | ○ | ○ |
| ハゼ | うどんこ病 | 葉, 枝, 幹 | ○ | ○ |
| モチノキ | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| | 黒やに病 | 葉 | ○ | ○ |
| ツルウメモドキ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| マサキ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| | (帯化病) | 枝 | ○ | ○ |
| | モザイク病 | 葉 | ○ | ○ |
| イロハモミジ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| | 根頭がんしゅ病 | 根 | ○ | ○ |
| | 白紋羽病 | 根 | ○ | ○ |
| ツバキ | 白もち病 | 葉 | ○ | ○ |
| | すす病 | 葉 | ○ | ○ |
| | もち病 | 葉 | ○ | ○ |
| | (ペスタロチ)の病 | 葉 | ○ | ○ |
| | (Colletotricum) | 枝 | ○ | ○ |
| | (Discosia) | 葉 | ○ | ○ |
| サザンカ | もち病 | 葉, 芽 | ○ | ○ |
| | (モザイク症状) | 葉 | ○ | ○ |
| モッコク | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| サカキ | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| ヒサカキ | 白もち病 | 葉 | ○ | ○ |
| | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |

| 樹種 | 病名 | 被害部位 | 発生場所 | |
|---------|----------------|------|------|--------|
| | | | 生産苗畑 | 公園等の緑地 |
| キブシ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ジンチョウゲ | (白紋羽病) | 根 | ○ | ○ |
| | モザイク病 | 葉 | ○ | ○ |
| | (帯化病) | 枝 | ○ | ○ |
| サルスベリ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| アオキ | 褐斑病 | 葉 | ○ | ○ |
| | すす病 | 葉 | ○ | ○ |
| | 炭そ病 | 枝, 葉 | ○ | ○ |
| | (うどんこ病) | 葉 | ○ | ○ |
| | (Macrophoma) | 枝 | ○ | ○ |
| | (Cytospora) | 枝 | ○ | ○ |
| ミズキ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ヤマボウシ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ハナミズキ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ツツジ類 | 葉紋病 | 葉 | ○ | ○ |
| | もち病 | 葉 | ○ | ○ |
| | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| ネズミモチ | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| ヒイラギ | (Phyllosticta) | 葉 | ○ | ○ |
| モクセイ | | | | |
| コバノトネリコ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| クチナシ | すす病 | 葉 | ○ | ○ |
| ニワトコ | うどんこ病 | 葉 | ○ | ○ |
| サンゴジュ | (すす病) | 葉 | ○ | ○ |
| タケ類 | 開花病 | 枝 | ○ | ○ |
| | てんぐ巣病 | 枝 | ○ | ○ |
| | すす病 | 葉, 枝 | ○ | ○ |
| ササ類 | さび病 | 葉 | ○ | ○ |

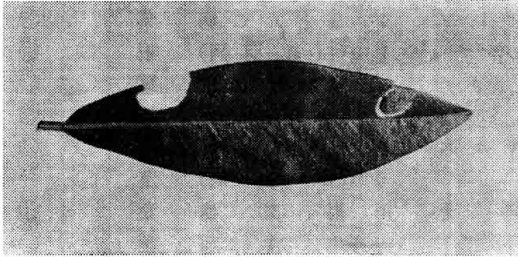
注) 病名は日本有用植物病名目録Ⅱ,Ⅲ (1965) にしたがった。
 () は同目録に登載されていないもの。
 a) 伊藤一雄: 樹病学大系Ⅰ: 246, 1971.
 b) 小林享夫: 森林防疫 22 (12): 2, 1973.
 c) 伊藤一雄: 樹病学大系Ⅲ: 176~178, 1974.

今回の調査のほか、県下の生産苗畑における被害事例を付記すると次のとおりである。

(1) セイヨウバクチノキのせん孔性病害

数年前から津久井郡藤野町のビニールハウス挿木苗床と養成苗畑で発生している。発病の最盛期は7月から8月頃である。病徴ははじめ葉の先端や葉縁に黄緑色点が生じ、拡大して中央部が褐色となり、のち全病斑が褐変して罹病部分は離脱する。現在直接の指導にあたっては農業改良普及所と病害虫防除所が中心となって、本病の菌の同定と防除対策を検討中である。なお、藤沢市の

苗畑ではバクチノキにも、6月から8月頃まではほぼ同様の病害が発生していた。



写真一 2 セイヨウバクチノキのせん孔性病害

(2) ツバキの炭そ病による枝枯れ

昭和44年、藤沢市葛原の植木生産苗畑で、ツバキの一部の苗木と成木に枝枯れが目立ちはじめ、当林試に鑑定依頼があった。検鏡したところ、炭そ病菌 (*Colletotrichum* sp.) が検出された。本病の被害は主に枝枯症状を呈することである。新梢が本菌に侵されると急速にしおれて枯死する。

2年生以上の枯枝には芽を中心に紡錘形に凹んだ罹病痕跡と思われる部分が認められる。

現在でも実生苗木の一部や成木に毎年常発して慢性的な被害を与えている。



写真一 3 ツバキの炭そ病による枝枯

(3) 土壌病害

緑化樹木の生産苗畑でも、各種の土壌病害が発生しているものと思われるが、調査困難なため今回の調査で

も、ほとんど認められなかった。次に過去に実害のあった土壌病害について概略を記述する。

1) 白紋羽病

昭和45年、藤沢市宮原の苗畑の一部で白紋羽病が発生し、イヌツゲ、イロハモミジ、ジンチョウゲなどが枯死して問題となったことがある。

2) 根頭がんしゅ病

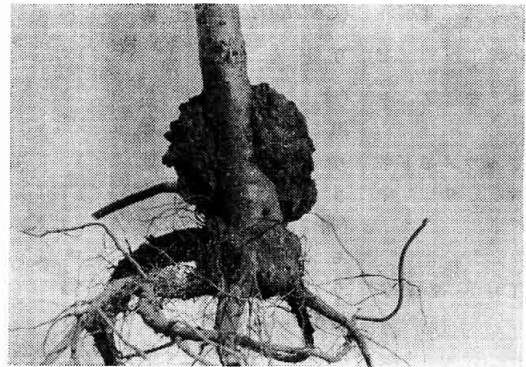
昭和49年に藤沢市南原で、サクラの苗木に根頭がんしゅ病が発生した。苗木養成して3年後に掘り起した際、がんしゅに気がつき当場に防除対策の依頼があって、現地調査に立会った。苗木およそ2万本中半分以上が罹病していた。罹病の著しいものは焼却し、罹病の軽微な苗木については罹病部分を切除し、石灰乳の浸漬処理を行うことによって効果が認められた。

このほかに県下で認められた根頭がんしゅ病罹病樹種を列記する。

ボケ類、カナメモチ、オウバイ、カエデ類、(モッコク)、(スダジイ)、(ペニシタン)《ウンリュウヤナギ》、《カロリナポプラ》、《キョウチクトウ》、《ボケ》、《イロハモミジ》、《ソメイヨシノ》

注) () は根頭がんしゅ症状のもの

《 》 は筆者が本菌を接種して罹病を確認したもの



写真一 4 ソメイヨシノの根頭がんしゅ病 (人工接種3年後)

2. 公園等の緑地における緑化樹木の病害

調査の結果、公園等で発生を認めた病害の中で、葉を侵すうどんこ病、すす病、斑点性病害及び枝を侵す病害が多かった。(表一)

とくに目立った病害について記述する。

(1) すず病

各緑地で各種樹木にすす病が著しく発生していた。とりわけサンゴジュ、トベラ、モチノキなどの常緑広葉樹

にすす病の被害が著しかった。これらの樹種にはカイガラムシ類やアブラムシ類、キジラミ等が併発していた。

なお病名目録⁴⁾に記載されていないものとして、カン類、コブシ、トベラ、ウメ、シャリンバイ、モチノキ、モッコク、サカキ、ヒサカキ、サルスベリ、ネズミモチ、サンゴジュのすす病が認められた。このうちトベラ、シャリンバイ、サルスベリ、ネズミモチ、サンゴジュは小河¹⁾、周藤²⁾、滝沢³⁾ら、モチノキは周藤²⁾、モッコクは滝沢³⁾、ヒサカキは小河¹⁾が森林防疫ニ緑化樹の病害虫シリーズの病害リストの中ですでに載せているが、コブシ、ウメ、サカキについてはこれが初めての記録と思われる。

(2) うどんこ病

マサキ、ウバメガシ、ユキヤナギ、コデマリなどの刈込株や生垣の一部で、うどんこ病の被害が著しかった。

(3) スダジイのてんぐ巣病

公園緑地などの周囲に植栽されているスダジイの枝条の一部にてんぐ巣症状が見受けられた。初期の罹病枝は1 m以上にも伸長し、罹病葉は黄緑色で小さく、時に奇形となる。



写真-5 スダジイのてんぐ巣病
(初期罹病枝)

横浜市港南区日野にある県指定、天然記念物のスダジイは昭和44年頃から数年おきに罹病枝を切除しているが、次第に樹勢が弱まりつつある。県下のスダジイの天然林などではほとんど認められない病害である。現在ま

だ病因は明らかでない。最近小林⁵⁾によって新病害として紹介されたものである。周藤²⁾、小河¹⁾は緑化樹病害の一覧表の中でシノキ類に未記録の病害としててんぐ巣病を載せている。本文には記載がないので正確には判らないが恐らく本病と同一のものと思われる。

(4) さび病

昭和48年に横浜市野毛山動物園内でシャリンバイにさび病が発生した。前年に県外から苗木を移入したもので、すでに県外で罹病したと思われる。直ちに罹病している冬芽、新梢、葉などを切除焼却したため、その後はほとんど発病しなかった。

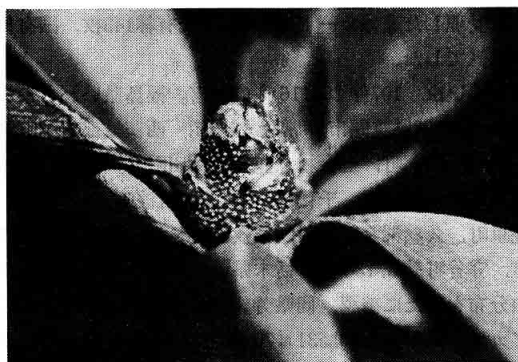


写真-6の1 シャリンバイのさび病
(若芽が罹病)



写真-6の2 シャリンバイのさび病
(幼茎が罹病)

引用文献

- 1) 小河誠司：森林防疫 24 (7)：13~16, 1975
- 2) 周藤靖雄：森林防疫 23 (3)：7, 1974
- 3) 滝沢幸雄：森林防疫 23 (10)：11, 1974
- 4) 日本植物病理学会編：日本有用植物病名目録II,

329 pp, 1965 ; III, 218 pp, 1965 ; I (改訂版), 254 pp, 1975

- 5) 小林享夫：緑化樹の病虫害XIV, 病害の部, 林業と薬剤 53：1~5, 1975

(1975.10. 1 受理)

被害速報

10~11月の森林病虫害等被害発生状況

昭和50(1975)年10月16日から11月15日までの1カ月に受理した速報カードは206枚(民有林143枚, 国有林63枚)でした。

■松くい虫 107件 26,116㎡の被害。福島県いわき市で100㎡。茨城県笠間市, 常陸太田市, 西茨城郡岩瀬町, 岩間町, 友部町, 七会村, 鹿島郡鉾田町, 大洋村, 新治郡八郷町, 新治村, 千代田村, 筑波郡筑波町, 谷和原村, 豊里町, 久慈郡金砂郷村, 稲敷郡阿見町, 北相馬郡藤代町, 守谷町計3,130㎡。栃木県にマツノザイセンチュウの分布を新たに確認, 同県芳賀郡益子町(東京局笠間署)アカマツ65年生3.30ha31㎡70本, 7月ごろより松の色が変色を始め10月に入り赤変枯死, 茨城県林試が材線虫を鑑定(報告=同市菊池久氏)。石川県羽咋郡志賀町66㎡。福井県小浜市, 大飯郡高浜町計63㎡。岐阜県可児郡可児町, 御嵩町計450㎡。静岡県磐田市, 浜北市, 浜松市, 湖西市, 袋井市, 賀茂郡一円, 磐田郡浅羽町, 浜名郡雄踏町, 新居町, 引佐郡三ヶ日町計2,311㎡。愛知県渥美郡田原町248㎡。滋賀県大津市, 野洲郡野洲町(以上大阪局大津署)計58㎡。和歌山県御坊市, 日高郡由良町, 美浜町, 日高町, 川辺町, 南部町, 印南町, 中津村, 南部川村, 那賀郡岩出町, 那賀町, 桃山町, 粉河町, 貴志川町計10,504㎡。鳥取県鳥取市(大阪局鳥取署)18㎡。島根県江津市, 出雲市計5,675㎡。広島県佐伯郡宮島町(大阪局広島署), 世羅郡甲山町, 世羅町, 世羅西町計1,246㎡。高知県土佐清水市(高知局清水署), 高知市, 須崎市, 南国市, 土佐市, 吾川郡伊野町, 春野町, 高岡郡日高村計167㎡。福岡県宗像郡福岡町, 玄海町, 津屋崎町(以上熊本局福岡署)計214㎡。長崎県南松浦郡富江町, 岐宿町(以上熊本局五島署)計158㎡。熊本県本渡市, 牛深市, 天草郡竜ヶ岳町, 天草町, 河浦町, 五和町, 苓北町, 栖本町, 有明町, 御所浦町, 姫戸町, 倉岳町, 新和町, 松島町計1,470㎡。大分県別府市, 速見郡(町村不詳)(以上熊本局大分署)計11㎡。宮崎県串間

市(熊本局串間署), えびの市(同局えびの署), 東諸県郡高岡町(同局高岡署), 児湯郡都農町(同局日向署)計35㎡。鹿児島県加世田市(熊本局鹿児島署), 肝属郡東串良町, 曾於郡大崎町(以上同局鹿屋署), 姶良郡横川町(同局加治木署), 熊本郡上屋久町(同局上屋久署)計155㎡。沖縄県国頭郡東村(熊本局沖縄署)リュウキュウマツ15~25年生78本6㎡, 県林試でマツノザイセンチュウと確定。

■松毛虫 7件 777haの被害で石川県のみの。輪島市, 珠洲市, 鳳至郡穴水町に発生でほとんどが激害。

■マツバノタマバエ 3件 150haの被害で石川県珠洲市のアカマツを加害, 中害。

■スギタマバエ 13件 1,347haの被害。新潟県五泉市10ha。熊本県上益城郡清和村, 矢部町, 下益城郡砥用町, (以上熊本局矢部署)計1,292ha。大分県玖珠郡玖珠町, 宇佐郡院内町(以上熊本局中津署)計29ha, 海拔500m以下の林分は全面的, 500m以上は谷間の通風の悪い林分に被害が多い傾向。宮崎県東臼杵郡諸塚村, 西郷村(以上熊本局日向署)計16ha。

■スギノハダニ 24件 1,533haの被害。山形県東田川郡楯引町, 西田川郡温海町計21ha。福島県双葉郡浪江町(前橋局浪江署)41ha。群馬県吾妻郡吾妻町(前橋局中之条署), 碓氷郡松井田町(同局前橋署)と民有林で高崎市, 安中市, 群馬郡榛名町, 箕郷町, 倉沢村, 碓氷郡松井田町, 計703ha。埼玉県秩父郡大滝村400ha, うち激害80ha。新潟県中蒲原郡村松町90ha。石川県小松市(大阪局金沢署), 輪島市, 珠洲市, 鳳至郡穴水町計222ha。滋賀県蒲生郡日野町, 伊香郡余呉町計11ha。岡山県新見市約20ha, 10年生前後の成長のよい林分に多く見られます。広島県庄原市, 比婆郡口和町, 比和町計25ha。

■ノネズミ 12件 2,648haの被害。長野県東筑摩郡四賀村アカマツ50ha。岐阜県大野郡清見村(名古屋局高山署), 荘川村(同局荘川署)ヒノキ計13ha。島根県邑智

10～11月の森林病虫害等被害発生状況 (昭和50年10月16日～11月15日まで)
に受理した速報カードの集計表

| | 松くい虫 | 松毛虫 | マツバノ タマバエ | スギ タマバエ | スギノ ハダニ | ノネズミ | 法定外の 病害 | 法定外の 虫 | 法定外の 害獣 |
|------|-------------------|-------|--------------|------------|-----------------|--------------------|------------|------------------|------------|
| 青森 | | | | | | | | (1 12) | |
| 岩手 | | | | | | | (1 591) | 1 1 | (1 0) |
| 秋田 | | | | | | | | 1 5 | |
| 山形 | | | | | 2 21 | | | | |
| 福島 | 1 100 | | | | (1 41) | | | | |
| 茨城 | 18 3,130 | | | | | | 4 07 | 19 | |
| 栃木 | (1 31) | | | | | | | | |
| 群馬 | | | | | (2 3) 1 700 | | | | |
| 埼玉 | | | | | 1 400 | | | | |
| 新潟 | | | | 1 101 | 90 | | | (1 1) | |
| 富山 | | | | | | | | | 1 1 |
| 石川 | 1 667 | 7773 | 150 | | (1 30) 9 192 | | | | |
| 福井 | 3 63 | | | | | | | | |
| 長野 | | | | | | 1 50 | | | |
| 岐阜 | 2 450 | | | | | (2 13) | | | (1 10) |
| 静岡 | 10 2,311 | | | | | | | 2 40 | |
| 愛知 | 1 248 | | | | | | | (1 0) | |
| 三重 | | | | | | | 1 1 | | |
| 滋賀 | (2 58) | | | | 2 11 | | | | |
| 京都 | | | | | | | 1 1 | (1 0) | |
| 和歌山 | 14 10,504 | | | | | | | | |
| 鳥取 | (1 18) | | | | | | | | |
| 島根 | 5 5,675 | | | | | (1 310) 4 1,740 | 1 300 | 1 15 | |
| 岡山 | | | | | 1 20 | | | | |
| 広島 | (1 86) 3 1,160 | | | | 3 25 | | | 1 1 | |
| 高知 | (1 3) 8 164 | | | | | | | | |
| 福岡 | (4 214) | | | | | | | | |
| 長崎 | (3 158) | | | | | | | | |
| 熊本 | 14 1,470 | | | (9 1,292) | | 4 535 | | (8 520) 1 141 | |
| 大分 | (1 11) | | | (2 29) | | | | (1 48) | |
| 宮崎 | (5 35) | | | (1 16) | | | | (1 16) | |
| 鹿児島 | (7 155) | | | | | | | | |
| 沖縄 | (1 6) | | | | | | | 1 0 | |
| 国有林計 | 27 775 | | | 12 1,337 | 4 743 | 323 | 1 591 | 14 597 | 2 10 |
| 民有林計 | 80 25,341 | 7 777 | 3 150 | 1 10 | 20 1,459 | 9 2,325 | 7 302 | 15 222 | 1 1 |
| 合計 | 107 26,116 | 7 777 | 3 150 | 13 1,347 | 24 1,533 | 12 2,648 | 8 893 | 29 819 | 3 11 |

注：1 各欄の左はカード枚数。右は被害数量。数量の単位は、松くい虫のみm³、その他はすべてhaである。

2 () 書は国有林、その他は民有林。

3 報告のない県名は省略してある。

郡・飯石郡一円(以上大阪局川本署), 出雲市, 鏡川郡多伎町, 佐田町, 鹿足郡津和野町ヒノキ, アカマツ計2,050ha, 49年春のササの一斉開花による異常発生。熊本県阿蘇郡高森町, 波野村, 南小国町, 小国町スギ, ヒノキ計535ha。

■法定外の病害 8件893haの被害。スギの赤枯病が三重県北牟婁郡海山町0.6ha3千本激害, 同地は前生樹が本病の被害をうけていた林分への植林で, 激害のため改植予定。ヒノキの黄褐葉枯病が京都府綾部市20年生0.5ha1,300本, 葉の中途又は先端が黄〜褐色に変色, 過密林分なので間伐を指示。マツのすす葉枯病が島根県江津市アカマツ300ha。マツの葉すす病が茨城県久慈郡水府村クロマツ約120年生1本激害。カラマツの落葉病が岩手県岩手郡雫石町(青森局雫石署)591ha83万余本激〜中害。ハイビクシンノのさび病と芽枯病の共同加害が茨城県竜ヶ崎市の約50年生1本中害, 同芽枯病が同県新治郡八郷町ハイビクシン30年生と80年生2本中害。サクラの(さめはだ)胴枯病とクワシロカイガラムシの共同加害が茨城県行方郡潮来町ソメイヨシノ5年生120本に激害, 蒸散抑制のためのわら巻きがカイガラムシの絶好の繁殖場となり, それによるサクラの衰弱が胴枯れ発生の一助になっています。

■法定外の虫害 29件819haの被害。ナラノフサカイガラムシが茨城県西茨城郡七会村ナラ10年生0.5ha150本激害, 枝枯れ症状を呈して枯死。キマダラコウモリが愛知県北設楽郡津具村(名古屋局新城署)ヒノキ6年生30本0.1ha, 大分県別府市(熊本局大分署)スギ, ヒノキ4〜6年生48haに2,200本点在。カラマツマダラメイガが青森県南津軽郡大鰐町(青森局大鰐署)16〜18年生12ha激害, 秋田県平鹿郡平鹿町でも12年生5ha中害。イブ

キチビキバガが茨城県猿島郡三和町, 那珂郡那珂町のカイヅカイブキ5〜7年生0.5ha808本激〜中害。ホタルガが茨城県多賀郡十王町ヒサカキ17ha1万本激害, 9月上旬DEP乳剤1千倍液により防除済み。鱗翅目の1種(メクイガ=報告者)が島根県江津市スギ3〜10年生15ha4万本中害。クロカミキリが京都市(大阪局京都署)アカマツ20年生3本激害。ゴマダラカミキリが沖縄県浦添市モクマオウ4年生400本0.1haに激害, 会社の防風林で枯損木が点在。ヒメコガネ(幼虫)が茨城県那珂郡那珂町ヒノキ苗畑0.14ha。マツノクロホシハバチが岩手県東磐井郡大東町アカマツ30〜50年生1ha, 茨城県那珂郡緒川村ゴヨウマツ20年生3本, 新潟県南魚沼郡湯沢町(前橋局六日町署)カラマツ9〜10年生1ha, 静岡県周智郡春野町, 森町アカマツ10〜40年生40ha, 広島県佐伯郡吉和村アカマツ7〜15年生1ha。コオロギが茨城県北茨城市イチョウ6年生1,400本に1ha激害, ちょうどカミキリの後食のように地際や根, 地上部が食害され, 被害の著しいものは枯死している(県林試海老根翔六氏)。スギザイノタマバエは, 熊本県上益城郡清和村, 矢部町, 下益城郡砥用町, 阿蘇郡蘇陽町(以上熊本局矢部署)と民有林の矢部町計661ha, 宮崎県東臼杵郡諸塚村(熊本局日向署)14〜18年生16ha激〜中害で, 沢沿いの激害木では心材部に達するもの(腐朽菌等による間接被害?=報告者)もあるとのこと。

■法定外の獣害 3件11haの被害。ノウサギが岩手県岩手郡雫石町(青森局雫石署)スギ50年春植えの0.19ha。サルが富山県中新川郡立山町クリ20年生0.6ha, 栽培クリの実を約50kg食害のほか, クリの枝折れ16本。カモシカが岐阜県恵那郡付知町(名古屋局付知署)ヒノキ1〜4年生3ha(区域面積10ha)。

昭和49年度森林病虫害等被害報告まとめ

昭和49(1974)年度森林病虫害等被害報告がこのほどまとめられ, 今春林野庁から詳細な報告書が出版される予定になっていますが, その概要を紹介します。

近年, 年ごとに倍増を続けてきた松くい虫による被害のふえ方は49年度に至りようやくよこばい傾向をみせ, 対前年約3万㎡減の100万9千㎡(うち国有林10万7千㎡)となりました。前年より微減した主な病虫害は松毛虫, マツバノタマバエ, スギノハダニ, クリタマバチ, カラマツ先枯病などで, ノネズミとマイマイガは半減し

ました。法定害虫のなかでスギタマバエだけは, 国・民有林とも微増し11万3千haの被害です。特別天然記念物として話題を呼んだカモシカによる被害は48年度の479haから49年度は1,210haと大幅にふえました。ノウサギはほぼ前年同水準の1万7千haです。

民有林における法定病虫害等の県別被害は次ページの表のとおりです。

昭和49年度法定森林病虫害等被害(民有林)

| 区分 | 松くい虫 ㎡ | 松毛虫 ha | マツパノ タマバエ ha | スギ タマバエ ha | マイマイガ ha | スギノ ダニ ha | クマバチ ㎡ | ノネズミ ha | カラマツ 先枯病 ha |
|------|-----------|-----------|--------------------|------------------|-------------|-----------------|-----------|------------|-------------------|
| 北海道 | 40 | 19 | - | - | 71 | - | - | 1,832 | 1,551 |
| 青森 | 0 | - | - | - | - | 3,812 | - | - | - |
| 岩手 | 3 | 23 | - | - | 365 | - | - | 180 | 3,370 |
| 宮城 | 0 | 159 | - | - | - | 4,925 | - | 542 | 6 |
| 秋田 | 0 | 128 | 655 | - | - | - | - | - | - |
| 山形 | 1,269 | 2 | 1,120 | - | 0 | - | 105 | 2 | - |
| 福島 | 860 | 14 | - | - | - | 549 | 905 | 1,144 | - |
| 茨城 | 8,970 | 249 | - | - | - | 3 | 0 | 2 | - |
| 栃木 | 300 | - | 26 | - | - | 11 | - | 124 | - |
| 群馬 | 200 | 4 | - | - | - | 10 | - | 23 | - |
| 埼玉県 | 160 | 0 | - | - | - | 73 | 0 | - | - |
| 千葉県 | 40,964 | 357 | - | - | - | 35 | 156 | - | - |
| 東京都 | 1,045 | 20 | - | - | - | - | - | - | - |
| 神奈川県 | 18,105 | 30 | - | - | - | - | 11 | 2 | - |
| 新潟 | 577 | 100 | 709 | 18 | 1,563 | 2,520 | - | 58 | 10 |
| 富山 | 1,486 | 578 | 1,086 | 1,082 | 385 | 861 | - | - | - |
| 石川 | 1,044 | 1,835 | 717 | 178 | 328 | 2,277 | - | - | - |
| 福山 | 230 | 934 | - | 88 | - | 706 | - | - | - |
| 山梨 | - | - | - | - | - | - | - | 44 | - |
| 長野 | 0 | 0 | 45 | - | 70 | - | - | 505 | 344 |
| 岐阜 | 5,660 | 21 | - | 100 | 140 | 280 | - | 760 | - |
| 静岡県 | 5,056 | 8 | 16 | 7 | - | 268 | - | 157 | - |
| 愛知 | 8,884 | 35 | - | 1 | - | 74 | - | 11 | - |
| 三重 | 3,857 | 2 | - | 17 | - | 360 | - | 26 | - |
| 滋賀 | 2,282 | 15 | 5 | 28 | - | 118 | - | - | - |
| 京都 | 9,068 | 10 | - | 96 | - | 2,125 | - | - | - |
| 大阪 | 29,980 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 兵庫県 | 71,009 | - | - | - | - | 71 | - | 1 | - |
| 奈良 | 21,502 | 86 | - | - | - | 187 | - | 0 | - |
| 和歌山 | 22,604 | - | - | 0 | - | 32 | - | - | - |
| 鳥取 | 761 | - | 50 | - | - | 307 | - | 41 | - |
| 島根 | 4,603 | - | - | - | - | 5 | - | 2,174 | - |
| 岡山 | 220,850 | - | - | - | - | 41 | 0 | 69 | - |
| 広島 | 30,555 | 35 | 254 | - | 260 | 5 | 0 | 4,570 | - |
| 山口 | 53,419 | 1,790 | - | - | - | 9 | 1 | 7 | - |
| 徳島 | 2,141 | 10 | - | - | - | 90 | - | 477 | - |
| 香愛 | 7,415 | - | - | - | - | 9 | - | - | - |
| 高知 | 45,128 | 110 | - | - | - | - | - | 1,373 | - |
| 福岡 | 8,913 | - | - | - | - | - | - | 4,086 | - |
| 佐賀 | 13,661 | 53 | 0 | 16,336 | - | 1,822 | - | 0 | - |
| 長崎 | 12,059 | - | - | 2,783 | - | 4,441 | - | - | - |
| 熊本 | 23,118 | 150 | 80 | 1,810 | - | 265 | - | - | - |
| 大分 | 29,998 | - | 16 | 14,017 | - | 442 | - | 1,476 | - |
| 宮崎 | 88,520 | 485 | - | 24,607 | 15 | 37 | - | 480 | - |
| 鹿児島 | 33,702 | 16 | - | 14,056 | - | 4,957 | - | - | - |
| 鹿兒島 | 70,200 | 3,340 | - | 13,932 | - | 10,123 | - | - | - |
| 沖縄 | 1,668 | 2 | 3 | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 901,866 | 10,620 | 4,782 | 89,156 | 3,197 | 41,850 | 1,178 | 20,166 | 5,281 |